

消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 平成27年3月1日(日)~13日(金)

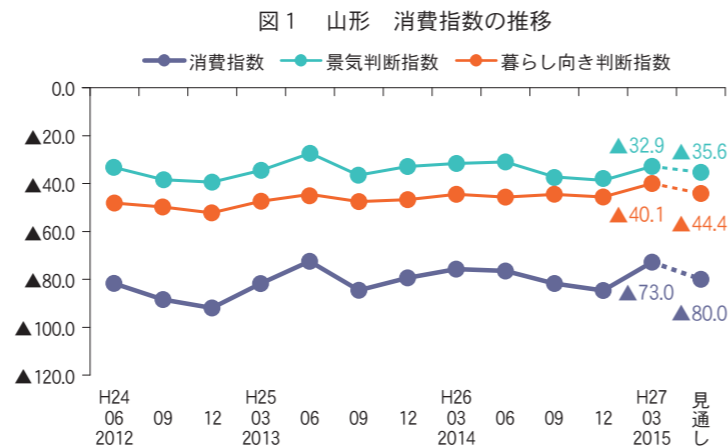
山形/モニター世帯数: 512世帯
有効回答数: 481世帯(回答率: 93.9%)
秋田/モニター世帯数: 390世帯
有効回答数: 353世帯(回答率: 90.5%)

消費指数

第35回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは4期ぶりに回復～

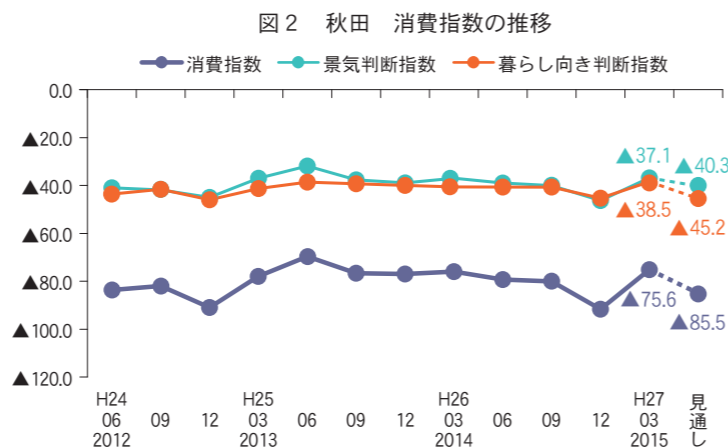
消費指数は、▲73.0(前期比11.7ポイント上昇)と4期ぶりに回復した。内訳は景気判断指数が▲32.9(前期比6.1ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲40.1(前期比5.6ポイント上昇)といずれも回復した。今後の見通しは、消費指数が▲80.0(今回調査比7.0ポイント下落)と再び悪化の見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲35.6(今回調査比2.7ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲44.4(今回調査比4.3ポイント下落)と、いずれも悪化の見通しとなっており、なお先行き不透明な状況がうかがえる。



第15回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドは4期ぶりに回復～

消費指数は、▲75.6(前期比16.2ポイント上昇)と4期ぶりに回復した。内訳をみると、景気判断指数が▲37.1(前期比9.3ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲38.5(前期比6.9ポイント上昇)とともに4期ぶりの回復となった。今後の見通しは、消費指数が▲85.5(今回調査比9.9ポイント下落)と悪化の見込みとなっている。内訳としては、景気判断指数が▲40.3(今回調査比3.2ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲45.2(今回調査比6.7ポイント下落)とともに悪化の見込みとなっている。



【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとり)の4項目で構成)の合計からなり、値は200~▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

景気と暮らし向き

景気判断

山形の景気判断指数は▲32.9(前期比6.1ポイント上昇)と3期ぶりに回復した。景気判断指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」と「雇用環境」が3期ぶりに回復し、「物価(日用品)」も若干ながら回復した。平成26年4月の消費税増税からまもなく1年が経過し、増税の影響が一巡すると考えられることから、「景気(県内)」や「雇用環境」についての認識が良好化し、「物価(日用品)」についての認識も若干良好化しているものと思われる。

秋田の景気判断指数は▲37.1(前期比9.3ポイント上昇)と4期ぶりに回復した。指数を形成する個別指数では、上昇幅に差はあるものの3項目すべてで改善が見られ、中でも「景気(県内)」は▲8.5(前期比4.9ポイント上昇)と改善幅が大きくなっている。「物価(日用品)」は小幅な改善となったものの、依然として大幅なマイナスで推移しており、引き続き家計での負担感の大きさがうかがわれる。

暮らし向き判断

山形の暮らし向き判断指数は▲40.1(前期比5.6ポイント上昇)と回復した。暮らし向き判断指数を形成する4つの指数については、「世帯収入」が▲8.5(前期比2.0ポイント上昇)、「保有資産」が▲10.8(前期比1.3ポイント上昇)、「お金の使い方」が▲8.1(前期比1.2ポイント上昇)、「暮らしのゆとり」が▲12.7(前期比1.1ポイント上昇)とすべての指数で回復した。

秋田の暮らし向き判断指数は▲38.5(前期比6.9ポイント上昇)と4期ぶりに改善した。指数を形成する個別指数については、「世帯収入」が▲8.7(前期比2.0ポイント上昇)、「保有資産」が▲10.5(前期比1.3ポイント上昇)、「お金の使い方」が▲7.0(前期比1.7ポイント上昇)、「暮らしのゆとり」が▲12.3(前期比1.9ポイント上昇)と4項目すべてで改善した。中でも「世帯収入」は3期ぶり、「お金の使い方」は4期ぶりの改善となった。

家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が487千円と前年同期比で10千円の増加なり、支出面では支出合計が449千円と前年同期比で45千円の増加となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は92.2%となり、前年同期に比べて7.5ポイントの上昇となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が418千円と前年同期比で10千円の減少となり、支出面では支出合計が368千円と前年同期比で24千円の減少となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は88.1%となり、前年同期に比べて3.4ポイントの減少となった。

